

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルフレいなぎ 児童発達支援事業所			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月4日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ほとんどのお子さんが個別療育やグループ療育を併用しているため、お子さんのアセスメント（理解度やコミュニケーション等）が細かくできている。そのため、所属園（大きな集団）でのお子さんの困りごとや支援・配慮できる点が明確になる。	・お子さんの個別療育やグループ療育での様子を確認する、保護者からご家庭の様子を確認するなどし、お子さんの全体を捉えるようにしている。 そのうえで、所属園でできることを日常的に考えている。	・お子さんに必要な視覚支援等、事業所で上手く活用できたものを所属園に持参し見ていただく。 ・グループ療育担当者、個別療育担当者、訪問支援員での事例検討会などを実施する。
2	保護者、所属園との情報共有を密に行っている。	・グループ療育を利用しているお子さんは、所属園の先生に当事業所の見学をしていただいている。 ・個別療育やグループ療育を併用しているため、保護者の方と話す機会が多く持てる。その機会に、ご家庭や所属園での様子も共有するなどしている。	・所属園の先生に、当事業所の見学ができることを積極的に伝えていく。保護者、所属園、事業所の三者がそれぞれの場所でのお子さんの様子や環境等を共有することで、保護者のさらなる安心感に繋げる。
3	所属園でのよい関わりや環境等を積極的にフィードバックしている。	・先生方のよい関わりや関係性を実際の場面を振り返って意味づけすることで、すでに行っている有効な関わりをより意識的に続けていただけるようにしている。 ・予定提示の方法やお子さんとの関わり方を提案する際は、所属園の環境に応じて取り入れやすい提案を心がけている。	・それぞれの所属園の特徴や環境をきちんと把握したうえで、よりよい関わりなどを先生方と一緒に考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者の視点が入りにくく、訪問支援員の相談先や質を上げる取り組みができていない。	・事業所として、スーパーバイザーやオンブズマンを導入し、第三者の視点が入るようにしているが、当事業についての相談等は行っていない。 ・事業所として事例検討会や研修は実施しているが、当事業に特化したものは行っていない。	・スーパーバイズや事例検討会では、所属園でのお子さんの様子も合わせて検討する。 ・法人全体で当事業の事例検討会の開催を検討する。
2	保護者の方に、保育所等訪問支援事業についての事業報告などの情報について発信できていない。	・事業所として、保護者オリエンテーションの実施やルフレだよりを配信しているが、当事業に関しては発信していなかった。	・保護者オリエンテーションにて当事業の報告等の情報を発信していく。
3			